

# 町議会行政視察研修報告

7月2日から3日の2日間、町議会の行政視察が行われました。その内容について報告します。

厚生産業常任委員会副委員長

西塔いく子

## 宮城県仙台市（東北電力株本店）

7月2日は、宮城県仙台市の東北電力(株)本店内にある中央給電指令所を視察しました。



女川原子力P Rセンター前

この指令所は3交替24時間体制で電力の監視制御をしています。私達の生活には24時間電気は欠かすことができないものですが、電気の需要は1日の中で、日中、夜間とは全く違ってきます。年間でも夏冬は春秋に比べ、電気の需要は増えます。ただ、オール電化等の生活様式の変化によって使用量にも変化が出てきているようです。

東北電力が電気を供給しているサービスエリアは日本国土の5分の1を占める広大な地域であり、供給エリアの隅々まできめ細かく送電線を張りめぐらせています。電気の供給においては、周波数や電圧が変化すると家庭用電気器具や産業用電気機器に影響を与えることもあるので、注意し供給をしているとのことでした。

また、サービス向上と経営の合理化のため全国の電力会社は、電

力設備の運用や事業活動を協調して行っており、事故や災害発生時には電気のやりとりをし、電力の安定供給に努めているとのことでした。4年前の、東日本大震災の時に活用されたとのことでした。その時には、東新潟の方から電気を受けたのですが、途中米沢から山形に入る線がなく、供給できなかったことが課題として出されたようです。また、バッテリーの開発が待たれている現状であるというお話も聞きました。

施設内には給電指令の訓練をするスペースがあり、実際の中央給電指令所とほぼ同じ設備を備えた訓練シミュレータが備えられています。それは、電力系統運用者の育成や技術力向上を図るための訓練装置です。そこでの訓練は、突発的な状況をトレーナーが設定し、それに対して訓練者が迅速な判断と緊密なチームワークによって的

確な需給制御や系統運用を行い、電力供給を安定的にコントロールできるようトレーニングを重ねるというものでした。

## 女川町（東北電力女川原子力発電所）

7月3日は、女川原子力発電所を視察しました。敷地は173万㎡でした。

女川原子力発電所には、1号機から3号機まで3つの発電設備があり、合計出力は217万4千kWで宮城県全域の電気を賄うことができるとのことでした。今回は一番新しい3号機の中に入れていただきましたが、セキュリティチェックが何重にもなされています。3機とも稼働していませんでしたが、2号機は準備が整った段階で再稼働を目指しているということでした。

4年前の震災時の津波は、発電所の敷地が14・8mと高い所にあつたため、この高さを越えることはなく、原子炉及び使用済燃料プールを冷却する機能も問題なかったとのことでした。敷地の周りを車から見せてもらいましたが、更に高い防潮堤工事を実施してい

ました。この原発の安全対策工事の完了予定は、平成28年3月とのことでした。

原発の再稼働については、様々な意見があると思いますが、今後の動向を見守りたいと思います。

総務文教常任委員会委員

堀川 政美

## 宮城県七ヶ浜町（七ヶ浜町役場）

7月2日は、東日本大震災の被害の概要をテーマに、宮城県七ヶ浜町を視察しました。

東日本大震災により、七ヶ浜町では、死者105人、行方不明者2人、半壊以上の建物被害1323世帯など甚大な被害を受けました。

地震直後、町内全域が停電し、電話等も一時不通となったほか、ガスや水道等、ライフラインは至る所で寸断されました。

そして、地震発生から65分後に町沿岸に押し寄せた大津波により、町の多くの地区で家屋が流失しました。津波の最大浸水高は12・1mで海岸から2kmの地点にまで津波が押し寄せました。

また、地震被害としては、建屋の倒壊等、その被害は町内全域に

及び、海岸近くの広い範囲で、地盤沈下や陥没等が発生しました。

震災後、町では早期に復興計画を策定し、取り組んできた結果、震災から4年経過した現在、膨大だったがれきの撤去も終了し、災害公営住宅の着工など、復興に向けた生活の基盤整備も順調に進んでいることを伺いし、着実に復興の途を歩んでいると確信しました。

## 女川町（女川駅、復興まちづくり情報交流館など）

7月3日は、東日本大震災からの復興状況をテーマに、宮城県女川町を視察しました。

女川町の東日本大震災の被害概況は、死者569人、死亡認定者257人（死亡届を受理された者）、行方不明者1人、確認不能者4人、建物被害数4411棟であり、町内の大半が津波により被災しました。特に、女川港に面する工業団地周辺や町中心部は津波により壊滅的な被害を受けました。

ガイドの方の案内で各被害地の今現在の復興状況を視察しましたが、当時の被害の大きさを感じさせられる場面が随所にありました。

現在、女川町では大震災の被害を今後の防災対策やまちづくりの課題と教訓にして復興策が進められています。

- ① 防災機能の強化、安心・安全なまちづくり・津波に強い安心・安全な市街地・集落の形成を目指した「まちづくり」をする。
- ② 産業の再生・漁港、港湾や水産加工施設は、町の基幹産業であり、早期復旧、復興に取り組む。
- ③ 長期化を想定した対策の必要性（医療・保健・福祉部門の強化）…町民の健康管理、心のケアなども復旧対策として取り組む。
- ④ 民心安定のために（教育・スポーツの振興）…施設の復旧・復興と共に、疲弊した心を取り戻し、教育、文化、スポーツなどの分野の更なる充実を目指す。
- ⑤ 人の絆の大切さを学ぶ…この震災をきっかけに、全国の人々から戴いたご支援ご協力で町民が勇気づけられました。これを単に復旧時期に終わらせることなく、将来にわたり、全国の人と町民の絆を深める大切さを語りついでいく。



女川駅から女川港を臨む

を拝見し、胸が熱くなりました。以上、2日間にわたり、七ヶ浜町・女川町の東日本大震災による甚大な被害状況と復興の現状を視察させていただきました。人間の素晴らしさと東北人の粘り強さを改めて感じました。両町の更なる復興と発展をご祈念申し上げたいと思います。

また、今回の視察を通し、当町においても「備えあれば憂いなし」の精神で普段からの防災意識を高め、対策を練っていく必要があると痛切に感じました。